



発行 社会福祉法人 聖友ホーム
 聖友乳児院（乳児院）
 聖友学園（児童養護施設）

ホームの近隣に お住まいの北村さんから 〈ご寄稿〉

聖友ホームへ
地域からの声

10年程前、オレンジホームが近所に移転される噂を耳にした際、静かな住環境が維持されるかが近隣住民の気掛かりでした。

しかし、騒音騒ぎ等は無く穏やかで、早々に不安は払拭し、逆に家庭ごみ収集のネットの出し入れを長年担当頂く等、地域への協力的な姿勢に感謝しています。

とは云え、拙宅前道路でオレンジホームの幼児さんから元気な声で挨拶を受けるも、最近は交代勤務の職員の方で素通りもある様で、地域防災・防犯の観点から懸念も感じています。

と申すのも、防犯・防災・被災等は自助・共助・公助の観点で日頃からの事前策が求められ、特に共助は互いの顔を知り、地域と連携して情報の共有を図っておくかが鍵で、万一の際、防げる事・守れる事・協力し合える事の幅が大きく変わるからです。

一方、杉並区の防災マップには、当地域は大震災時に火災の危険が比較的高く記されており、共助強化として数年前からご近所と『地域連携の会』を発足させ、2年半程前からオレンジホームにも参加頂き、定期的な会合にて杉並区からの危機管理情報を共有したり、本所防災館で災害体験学習を体験したりして来ています。何れにせよ日頃からの連携強化が肝心です。

高齢化が進む中、若い年齢層のオレンジホームの皆様方も万が一に備えた体制化を図って参りたく期待しており、今後とも宜しくお願い致します。

<補足>

個人宅と異なり、複数名が出入りする施設等の場合、確実にその建物の住人の方と近隣に認識される迄には相応の機会と時間が必要故、その辺りをより意識された対応が寛容と思慮します。通り掛かりに一声掛けて頂けると、きっときっかけ作りにもなり記憶も定着し易く有難いです。北村 至



子どもが通っている
杉並第九小学校・岩崎校長の話

職員の生活も大切にしながら
子どもたちの生活を長く支えて欲しい



Q：これまでの勤務地域と比較して杉並の子どもは？

杉並区での管理職経験は初めてですが、子どもたちは素朴な印象を受けました。勉強もスポーツもバランスが良い感じ。挨拶も元気に返してくれる。

Q：教員になられた頃とでは、子どもが変わったと思う？

昔は、学校や放課後の遊びがメインでしたが、今はいろいろな娯楽があり、子どもたちは忙しそう。ゲームや、携帯でのコミュニケーションも楽しいけれど、勉強を含め子どもたちのやらなければならないことが増えていて、大変だなと思う。

Q：コロナの5類移行の後、学校で変わったことは？

マスクの使用は本人の自由にしました。1, 2年生は、幼稚園・保育園の時にしていなかったせいか、外すことに抵抗が少なかったようです。

5月末の運動会では、熱中症対策もあって全員外すようにしました。先生たちも、基本的には外しています。

Q：児童養護施設に期待することは？

24時間体制で子どもの生活を支えることは、大変なことだと思います。家庭的な環境で子どもに真摯に向き合ってくれていることに感謝すると同時に、職員の方が疲弊しないようにと思います。

今は、小学校もクラス担任制から中学校のようなチーム制になりつつあります。児童養護施設でもチームで子どもを支えることで、職員の方の生活も大切にし、子どもたちに長く関わっていただきたいと思います。

Q：聖友学園の子どもたちの様子は？

学校を楽しんでくれていると思います。職員の方は保護者会には必ず出席して子どもの状況を把握してくれていて、学校行事の手伝いに参加もしてくれているので、感謝しています。



3年ぶりの運動会に 笑顔あふれて!

コロナ禍真っ只中であった昨年まで、感染面を考慮しクラス間の交流を避けるため、クラス別々で室内での運動会代替イベントを行っていましたが、今年は3年ぶりにやっとの運動会を開催できました。開催2ヵ月前から委員会が計画を立て、手作りの競技物を作成したり、準備にはとても時間を掛けていました。感染リスクを避けるため、競技に使う物をクラス別にしようと全て2つずつ作っていたので、とても大変だったと思います。

待ちに待った当日。天気も快晴で子どもたちが事前に練習していたアンパンマン体操からのスタートです。一から完璧に踊る子もいれば、練習の時は上手に踊っていたのが打って変わって恥ずかしがる子もいました。

続いてレース競技では、手作りの花道や果物畑、はらぺこあおむしのパネルなどを経由し、クラス職員と協力をしてゴールを目指しました。途中でレースから脱線したり、いつもは活発な子が緊張してしまったりと可愛いシーンでは子どもたちと一緒に職



ボールプールからとったボールをバケツに入れて、おなかを空かせたはらぺこあおむしに「はい、どうぞ!」

員全員が応援に力が入り沸いていました。

最終競技である恒例の「玉入れ」では、子どもたちが一生懸命かごにボールを入れ、クラスそれぞれ86個といった素晴らしい結果を出すことが出来ました。競技後は、日陰で当院手作りのお弁当と、デザートには冷たいみかんをみんなで食べました。「正直、子どもたちの表情はお弁当の時間に一番よくなったかもしれません(笑)」

今回の3年ぶりの運動会では、みんなで一緒に運動会に参加するという雰囲気を感じたり、お友達や職員と協力して絆を深めたり、お友達を応援したり、応援されたりする楽しみを感じたり…と日常の保育ではなかなか経験する事の出来ないことができたと思います。特に私が印象に残ったのは、子どもの競技中にその子どもと同じクラスの子が、うちわを両手に持ちながら、「ガンバレー!」「〇〇ちゃん!」と応援していた姿です。大きな声でお友達を応援していてとても良い笑顔がみられました。また、職員側も子どもたちの成長を見ることが出来、可愛

低月齢の子どもたちは、手作りの花道や果物畑を通してゴール



子どもたちと職員みんなでアンパンマン体操を踊りました

い姿に癒されました。私が当院に入職してからずっとコロナ禍が続いていたので、運動会に参加するのが初めてであったのもあり、開催できた喜びと普段見ることの出来ない子どもたちの様子にとっても感動しました。

最後に、日差しも強く気温も高い中、細目な水分補給・休憩と日除け対策を徹底したおかげで子どもたちと職員含め全員、熱中症などの体調不良もなく、大成功な運動会だったと思います。

聖友乳児院 もも組 クラス看護師 澤向 みなみ

五月初めに新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に変わって、予防のための行動制限が少なくなり、子どもたちの生活にも変化が見られます。

この3年あまりの間に失ったもの、見えずにあるダメージを慮っての各ホームからのレポートです。

メロディ
ホーム

食卓を囲んで皆で食べる 久しぶりの団欒

コロナ禍が明けてパーティー無し無しの食事可能になって、コロナ禍の日常に慣れてしまっていた為、正直子どもたちも職員も少し戸惑う様子がありました。

しかし、思い切ってパーティーを外して卓を囲むと自然に子ども同士の会話が弾み、あという間に元の生活に戻ったかの様でした。

これまで幼児の食事介助も隣で見守るだけで一緒に食べられない期間が長かったので「美味しい？」ではなく「美味しいね。」なんて隣で話しながら食事出来る事も嬉しく、「皆で食べるともっと美味しいね。」と子どもたちと共感し合う事が出来ました。子どもたちもまた、久しぶりの状況に懐かしさを感じながら食事を楽しんでいます。

当たり前前の食事風景がこんなにも温かく楽しい事だったんだと、コロナ禍を超えたからこそその有難みに気付きました。

必要な感染対策は継続しつつ、楽しい食卓での団欒を大切にしていきたいと思っています。

聖友学園 メロディホーム
児童指導員
川井 鈴音



茜ホーム

コロナ禍が終わって 友達の顔が見えた、声が聞こえた

コロナ禍での食卓では、隣同士のソーシャルディスタンスを確保する為に、パーティーを設置して食べていました。

しかし、5月8日より感染症法上の位置づけが5類に引き下げられた事により、施設での感染対策も緩和され、やっとパーティーが外れて通常の食卓に戻って来ました。

パーティーが外れた事で変わった部分が幾つかあります。

- ①子どもたちと一緒に職員も食卓を囲める。これまでは感染拡大（濃厚接触者にならない）させない為に職員は子どもとは離れて食べていました。
- ②お互いの顔を見て食べられる。パーティー越しだと壁を感じ、声も向こうには通り辛かったです。「何言ってるか聞こえない」「曇って見える」と言う声も多々ありました。



孤食から共食へ…食卓を皆で囲む事で、食事の大切さや楽しさ、マナーや食文化を伝える大切な時間だと考えています。

また、子どもたちが一人ひとりその日にあった出来事を話し合う場であり、相手の話を聞く場であり大事な団欒の機会です。

これからは、そういった食卓の時間を有意義に過ごせる様にしていきたいです。

聖友学園 茜ホーム 保育士 保谷 拓貴



「新型コロナと児童養護施設」

新型コロナウイルスが5類指定になってから約1ヵ月が経ち、学園でも各省庁の方針の元で制限を緩和したことで、少しずつ以前の生活を取り戻しつつあります。

児童養護施設は様々な年齢の子どもたちが集団生活をしている場であり、子ども・職員・外部の方など多くの人との出入りがあり、各々の行動範囲も広いという点等で、感染症については一般家庭よりもリスクが高いため、コロナ禍以前にも施設として相応の対応が必要でありましたが、コロナ禍においては特に神経を使うところとなりました。子どもたちにはそういった面で一般家庭よりも理解や我慢をお願いすることもあり、安全性と子どもの成長発達の機会の確保との両立には、日々頭を悩ませながら取り組んできました。そういった面では養育家庭が今よりも普及し、各家庭で柔軟な対応が出来るようになるとまた違ってくると思います。

新型コロナの大流行は多くの犠牲を伴い、社会全体に大きな影響を与えましたが、医療者としては手洗いやマスクの着用、体調不良の時は無理せず休むこと等これまではなかなか普及しなかった感染対策行動が多くの人で身に付き、皆で取り組むことで感染の流行が抑えられることを社会が実感できたことは、大きな成果ともなりました。新型コロナに限らず、新興感染症の流行は数年～数十年単位で繰り返される歴史があります。その際にこれからの時代を生きる子どもたちがこの多くの経験を活かし、より良い社会の形成と自身の豊かな人生に繋げていけるよう祈り、日々支援していきたいと思えます。 聖友学園看護師 清水 はるか

ご寄付の お願い



日ごろから、聖友ホームの子どもたちにお心を寄せていただき、ありがとうございます。本紙で進捗をお知らせしている乳児院と学園の建物の改築ですが、建築業者がようやく決定し、5月から聖友学園の建物の解体がスタートしました。待ちに待った改築工事がスタートして職員一同喜んでます。解体後に新しい建物ができるまでは、乳児院の建物は今まで通り使っていますので、工事の騒音が子どもたちの午睡に影響しないよう、建築業者には午睡の時間の作業についての配慮をお願いしています。工事中は、どうしても地域の方々にご迷惑をおかけすることになるので、防音壁を高く設定したり、建物への工事車両の出入りに際しての事故を防ぐための警備を厳重にするなど、建築業者と打ち合わせをして、安全面への配慮をしております。

《振込先》

- ①郵便局
記号番号 00160-1-766760
口座名義 聖友ホームささえ隊
- ②銀行名 ゆうちょ銀行 (9900)
支店名 〇一九店 (019)
口座番号 0766760 (当座預金)
受取人名 セイユウホームササエタイ

おかげさまで、今後、改築後の備品の配置などを検討していく中で、やはり、子どもたちの暮らしをささえるために、相応の費用が必要不可欠になってまいります。解体中の建物内で使っていた家具などを持ち出して今も使っていますが、できれば、新しい建物にはその部屋に合った備品を設置したいと願っております。皆様には、子どもたちの暮らしを支えるために、どうぞご寄付のご支援、ご協力をお願いいたします。

理事長 若松 弘樹